

(3) 南部中心核地域

ア. 市民アンケート調査

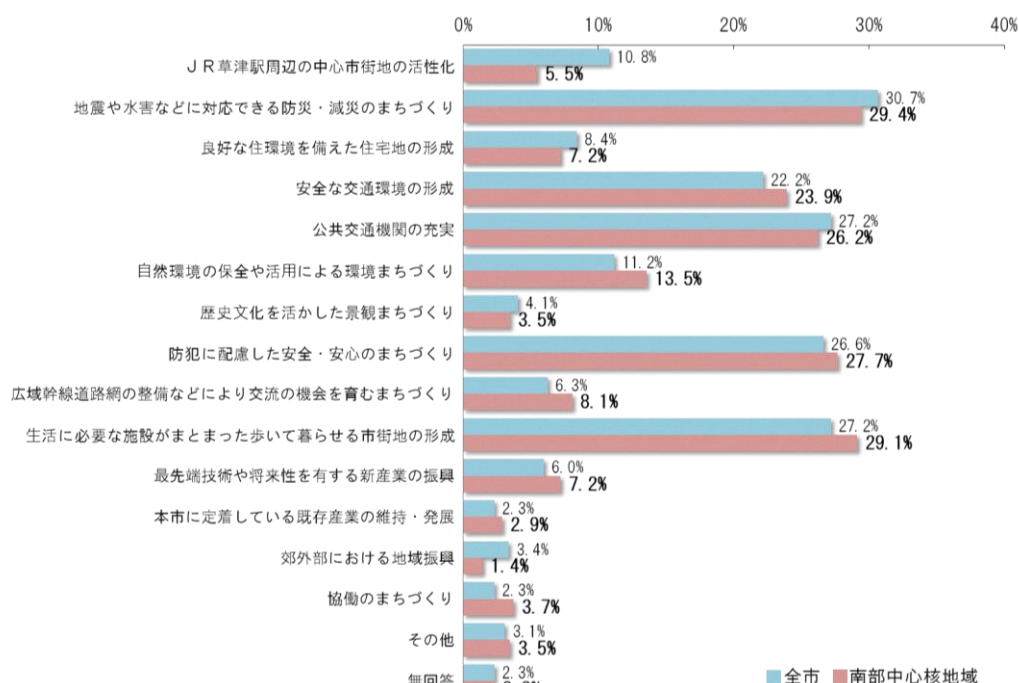
市民アンケート調査において、本地域にお住まいの皆さまの意向としては、次のとおりです。

①重点的に進めるべきまちづくりの分野

回答数が多く、全市の回答割合よりも多い項目は、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」、「安全な交通環境の形成」でした。

各学区で最も多い回答数は、志津南学区は「公共交通機関の充実」、矢倉学区は「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」、老上学区は「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせるまちづくり」、玉川学区は「安全な交通環境の形成」、南笠東学区は「公共交通機関の充実」等でした。

【重点的に進めるべきまちづくりの分野（南部中心核地域）】



※2 つまでの複数回答、回答者数に対する割合

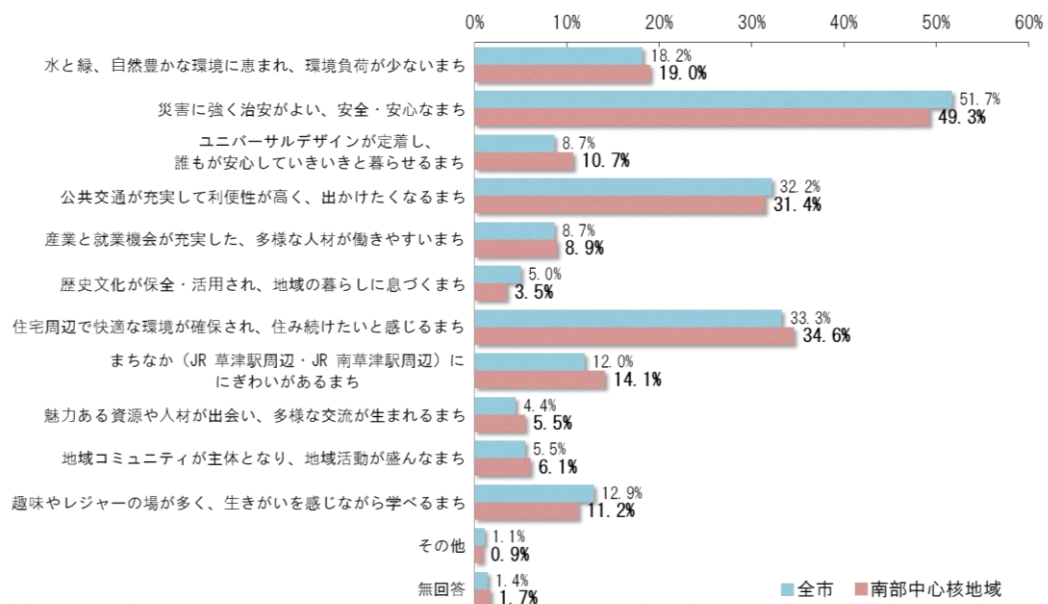
No.	設 問	全市	南部中心核地域					
			志津南	矢倉	老上	玉川	南笠東	
1	JR草津駅周辺の中心市街地の活性化	10.8%	5.5%	2.1%	6.0%	2.4%	9.5%	6.4%
2	地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり	30.7%	29.4%	25.0%	33.7%	35.3%	22.6%	27.7%
3	良好な住環境を備えた住宅地の形成	8.4%	7.2%	4.2%	9.6%	9.4%	6.0%	4.3%
4	安全な交通環境の形成	22.2%	23.9%	29.2%	21.7%	16.5%	34.5%	17.0%
5	公共交通機関の充実	27.2%	26.2%	37.5%	22.9%	27.1%	20.2%	29.8%
6	自然環境の保全や活用による環境まちづくり	11.2%	13.5%	14.6%	16.9%	10.6%	13.1%	12.8%
7	歴史文化を活かした景観まちづくり	4.1%	3.5%	2.1%	7.2%	1.2%	1.2%	6.4%
8	防犯に配慮した安全・安心のまちづくり	26.6%	27.7%	20.8%	32.5%	23.5%	29.8%	29.8%
9	広域幹線道路網の整備などにより交流の機会を育むまちづくり	6.3%	8.1%	8.3%	2.4%	10.6%	11.9%	6.4%
10	生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成	27.2%	29.1%	22.9%	25.3%	40.0%	25.0%	29.8%
11	最先端技術や将来性を有する新産業の振興	6.0%	7.2%	4.2%	8.4%	7.1%	8.3%	6.4%
12	本市に定着している既存産業の維持・発展	2.3%	2.9%	2.1%	1.2%	2.4%	4.8%	4.3%
13	郊外部における地域振興	3.4%	1.4%	4.2%	0.0%	1.2%	0.0%	4.3%
14	協働のまちづくり	2.3%	3.7%	12.5%	2.4%	4.7%	0.0%	2.1%
15	その他	3.1%	3.5%	2.1%	3.6%	5.9%	2.4%	2.1%
16	無回答	2.3%	2.3%	4.2%	2.4%	0.0%	2.4%	4.3%

②目指すべきまちの将来像

回答数が多く、全市の回答割合よりも多い項目は、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」でした。

各学区で最も多い回答数は、志津南学区、矢倉学区、老上学区、玉川学区で「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」、南笠東学区は「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」でした。

【目指すべきまちの将来像（南部中心核地域）】



※2 つまでの複数回答、回答者数に対する割合

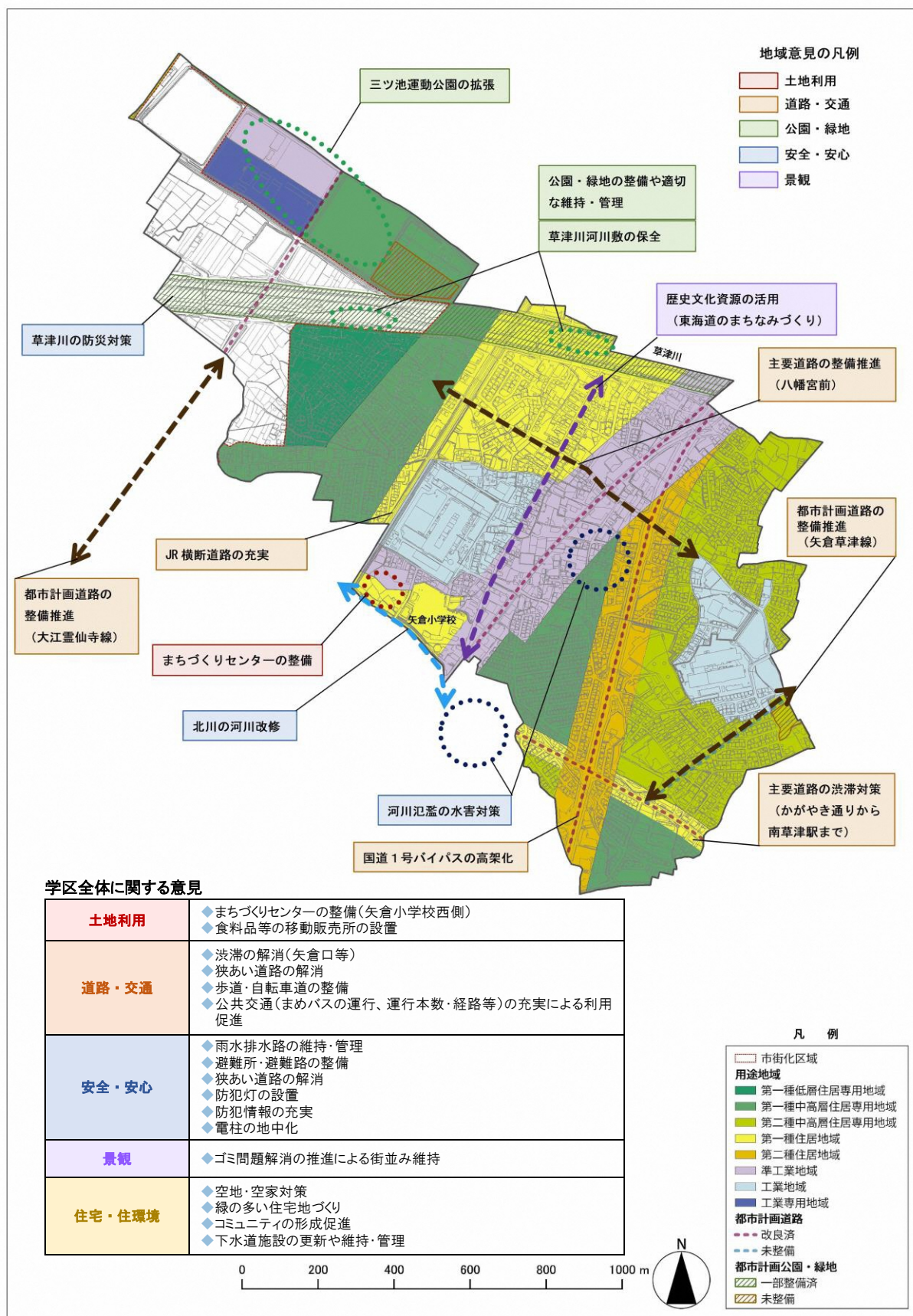
No.	設 問	全市	南部中心核地域					
			志津南	矢倉	老上	玉川	南笠東	
1	水と緑、自然豊かな環境に恵まれ、環境負荷が少ないまち	18.2%	19.0%	22.9%	16.9%	18.8%	16.7%	23.4%
2	災害に強く治安がよい、安全・安心なまち	51.7%	49.3%	50.0%	56.6%	42.4%	50.0%	46.8%
3	ユニバーサルデザインが定着し、誰もが安心していきいきと暮らせるまち	8.7%	10.7%	2.1%	9.6%	15.3%	11.9%	10.6%
4	公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち	32.2%	31.4%	41.7%	25.3%	25.9%	27.4%	48.9%
5	産業と就業機会が充実した、多様な人材が働きやすいまち	8.7%	8.9%	10.4%	12.0%	9.4%	6.0%	6.4%
6	歴史文化が保全・活用され、地域の暮らしに息づくまち	5.0%	3.5%	2.1%	7.2%	1.2%	3.6%	2.1%
7	住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち	33.3%	34.6%	35.4%	37.3%	38.8%	31.0%	27.7%
8	まちなか（JR 草津駅周辺・JR 南草津駅周辺）ににぎわいがあるまち	12.0%	14.1%	2.1%	10.8%	17.6%	26.2%	4.3%
9	魅力ある資源や人材が出会い、多様な交流が生まれるまち	4.4%	5.5%	2.1%	6.0%	7.1%	6.0%	4.3%
10	地域コミュニティが主体となり、地域活動が盛んなまち	5.5%	6.1%	14.6%	2.4%	5.9%	3.6%	8.5%
11	趣味やレジャーの場が多く、生きがいを感じながら学べるまち	12.9%	11.2%	8.3%	10.8%	10.6%	11.9%	14.9%
12	その他	1.1%	0.9%	2.1%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%
13	無回答	1.4%	1.7%	2.1%	1.2%	2.4%	2.4%	0.0%

※赤色は全市での回答割合よりも高い箇所

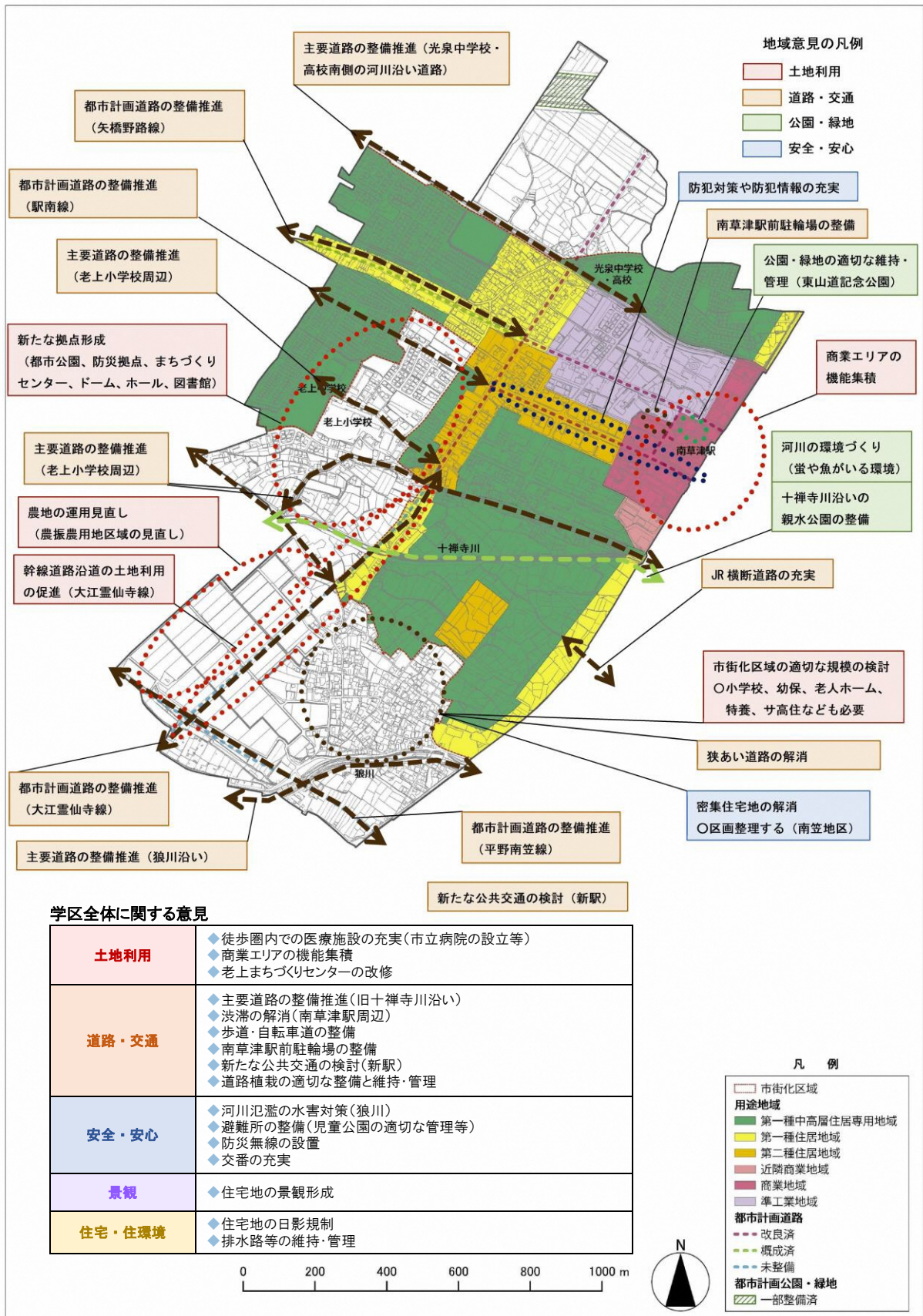
イ. 地域別市民会議

第1～3回地域別市民会議で本地域にお住まいの皆さまからいただいた御意見は次のとおりです。

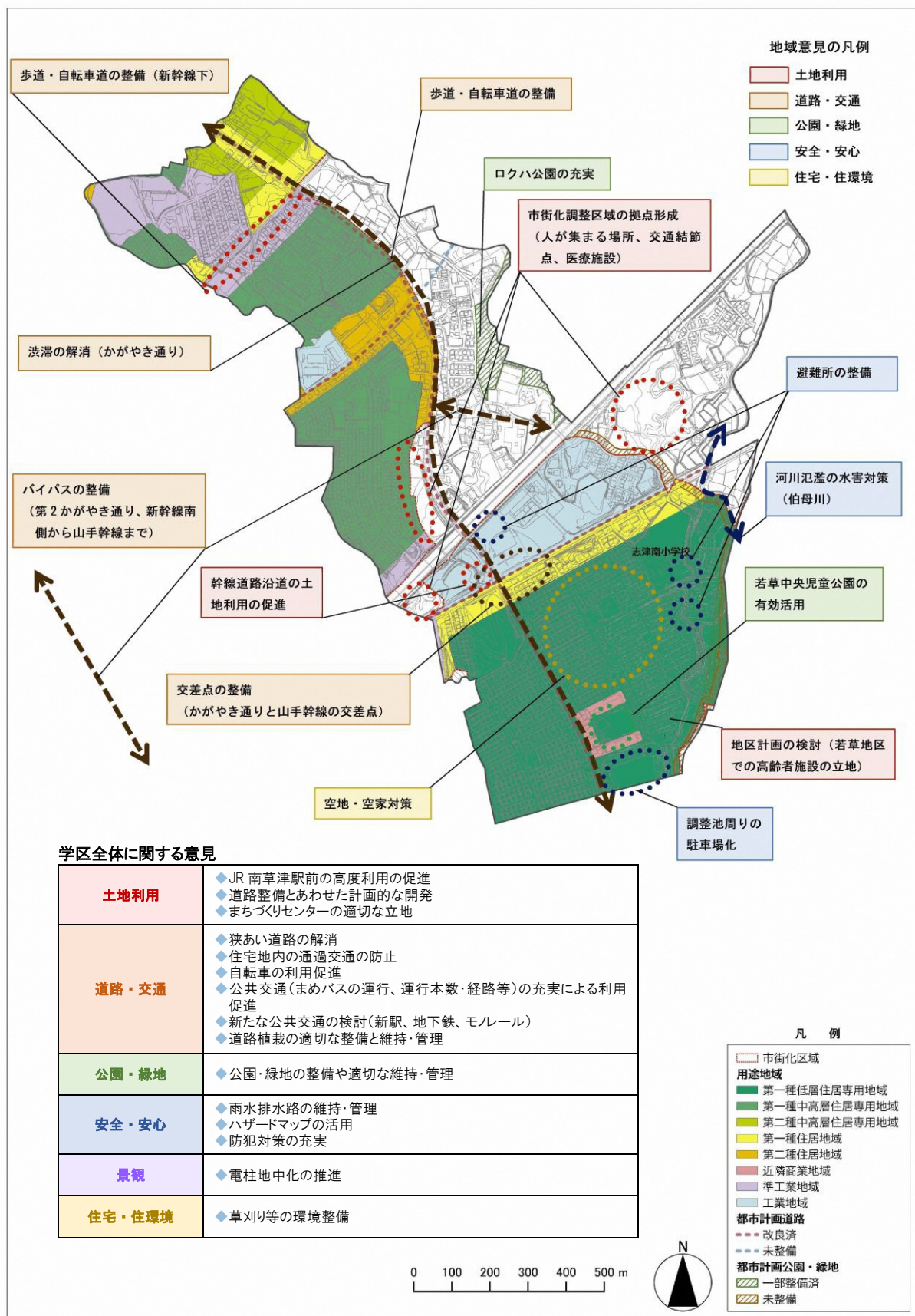
【地域からいただいた御意見（矢倉学区）】



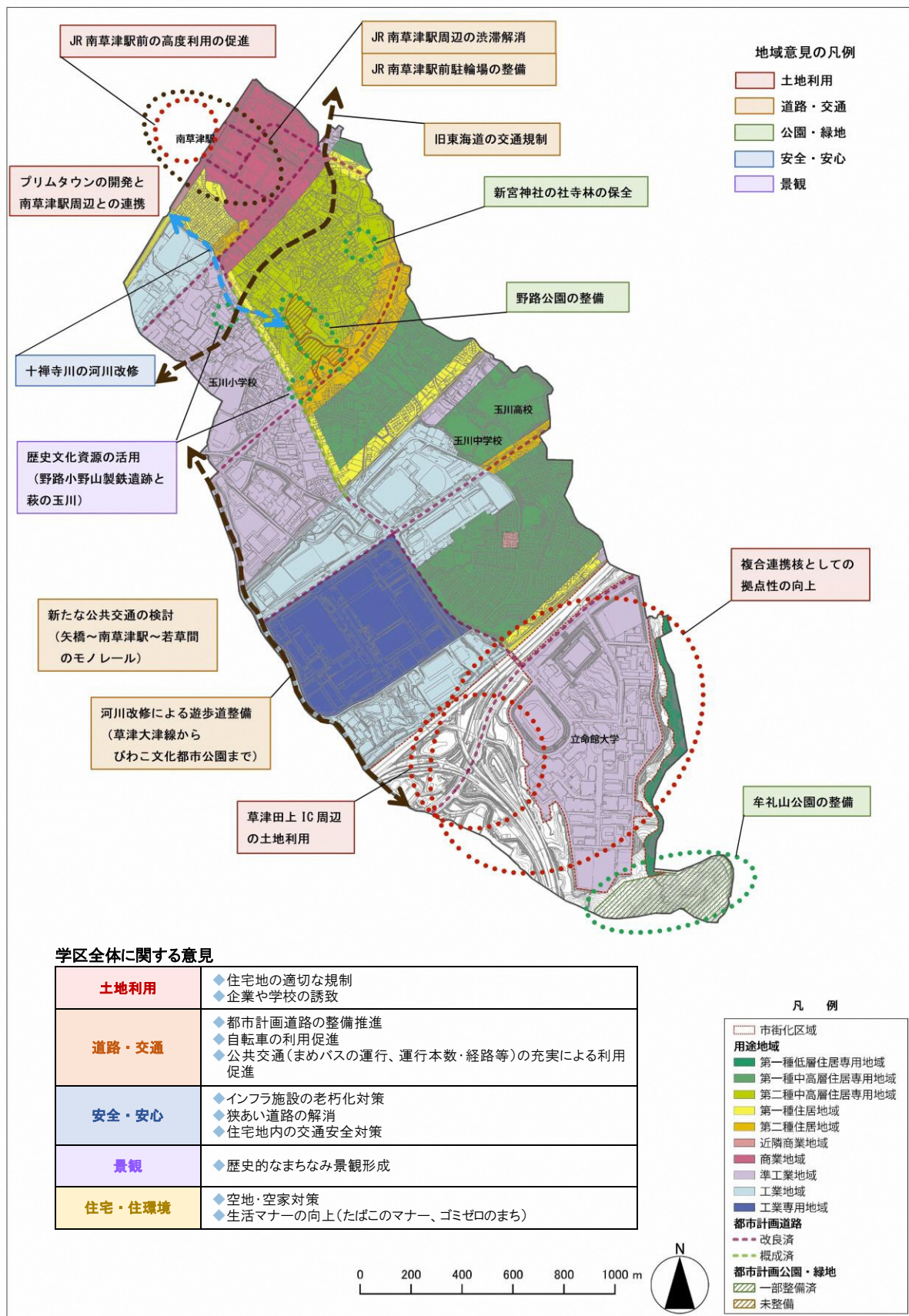
【地域からいただいた御意見（老上学区）】



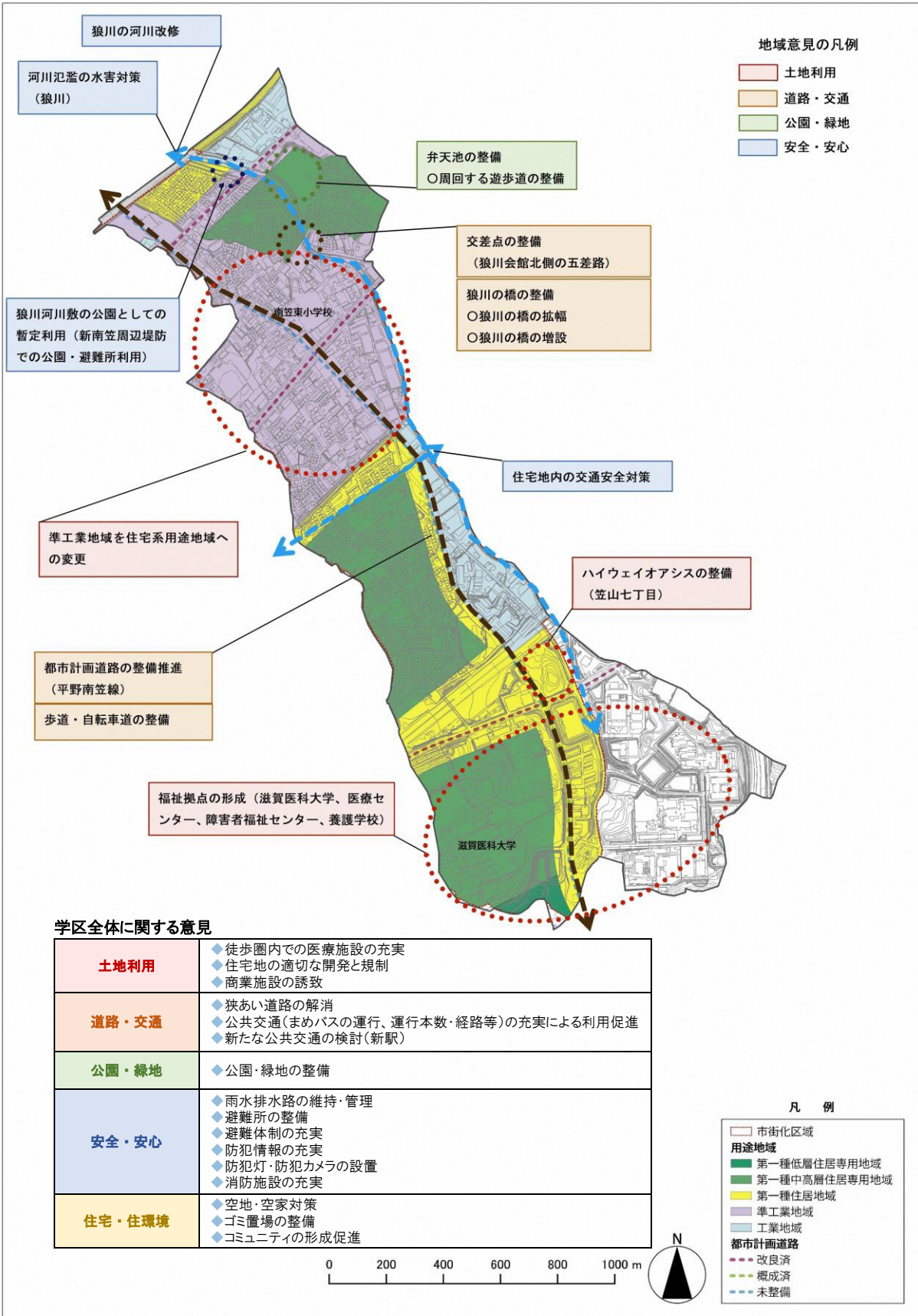
【地域からいただいた御意見（志津南学区）】



【地域からいただいた御意見（玉川学区）】



【地域からいただいた御意見（南笠東学区）】



第4章 地域別構想で設定した南部中心核地域の「地域の都市づくりの目標」については、第2回地域別市民会議で地域の皆さまから挙がった以下のキーワードも参考としながら設定を行いました。

学区	志津南	矢倉	老上	玉川	南笠東
住環境	○子育てしやすい ○住んでみたいと思っ てもらえるまち(空き 家に転入) ○住み続けたいまち ○子育て世帯を中心に 考える		○副都心 ○快適な住環境 ○ゆとりがあるまちなみ ○高級住宅地 ○子育て ○若い、キラキラ ○未来の方にいいもの を		○住環境と道路環境の 両立 (モデル地区となるよ うな) ○住み続けたい
道路・交通	○安全な交通環境のある ○高齢者の交通手段の 確保 ○自転車利用の促進 ○脱自家用車		○利便性		○交通の要所となっ ている道路交通網を利用 して子ども高齢者 も楽に安全にどこにも 行ける(渋滞している のは交通結節点が多い ため)
安全		○『安心して住める町』 高齢者対策と世代間 の交流問題 ○若い子どもたちを守 る、育てる、高齢者にも 優しい町づくり	○防災 ○安全・安心	○安全、安心の住みよ いまちづくりをもっと と提唱すべきです	
地域資源・ 歴史	○公園(児童だけでなく 高齢者も使う、管理) ○調整池周辺の活用				○南笠東は歴史が薄い ⇒○新たな歴史 ○新たな交流 ○未来都市
自然・農業		○自然との共生を求め る町づくり ○草津川の景観と自然 を守る ○びわ湖の自然、環境、 景観、生き物を守る SDGs な町づくり	○まちとの自然の共存 ○自然と触れ合える ○農環境 good		
地域活動・ にぎわい	○商業施設の駐車場充 実	○中心部の商店街の活 気が悪くなっているの で、本陣を中心にした まちなみを県外の人 にもっとアピールを行 っては	○にぎわい	○若い人との協創が必要 です(各種団体 共々、先見が乏しい ように思います。) ○地域協働による持続 可能な都市づくりが必要 です(地元企業、大 学等)	○みんなが楽しんで住 民も使える(ハイウェ イオアシスも) ○地域がつかがり
その他		○健幸都市 草津と全 国では認知されてい るが、草津市も(特に 矢倉学区)高齢化を 迎えております。高齢 者が楽しめる場所を 各学区に設置してい ただきたい	○学習環境 good	○結論賛成であります、目標実現のためには 改革・改善の裏付けとなる投資が必要です。 考え方や構想が市では前に進まないと思いま す。市として真に「都市づくり」を進めるなら投 資のための腹ぐくりが不可欠であり、この投資 がマスタープラン実現の成否を握るものと思 慮します ○低成長時代を迎え、少子高齢化を背負った 社会環境構造の変化を捉え、5年ごとに進捗 の確認及び軌道修正が何よりも大切です。20 年後には生産人口の減少が予想されるため 転入、転出、出生率が現行の推移を持続さ せるための施策が必要と思います。若者の車 離れ、高齢者の免許返納で通行量が減少す れば良いのですが、電動自転車、電動車い す類の増加が予想されると、引き続き道路整 備の必要性が求められます	

（４）東部丘陵地域

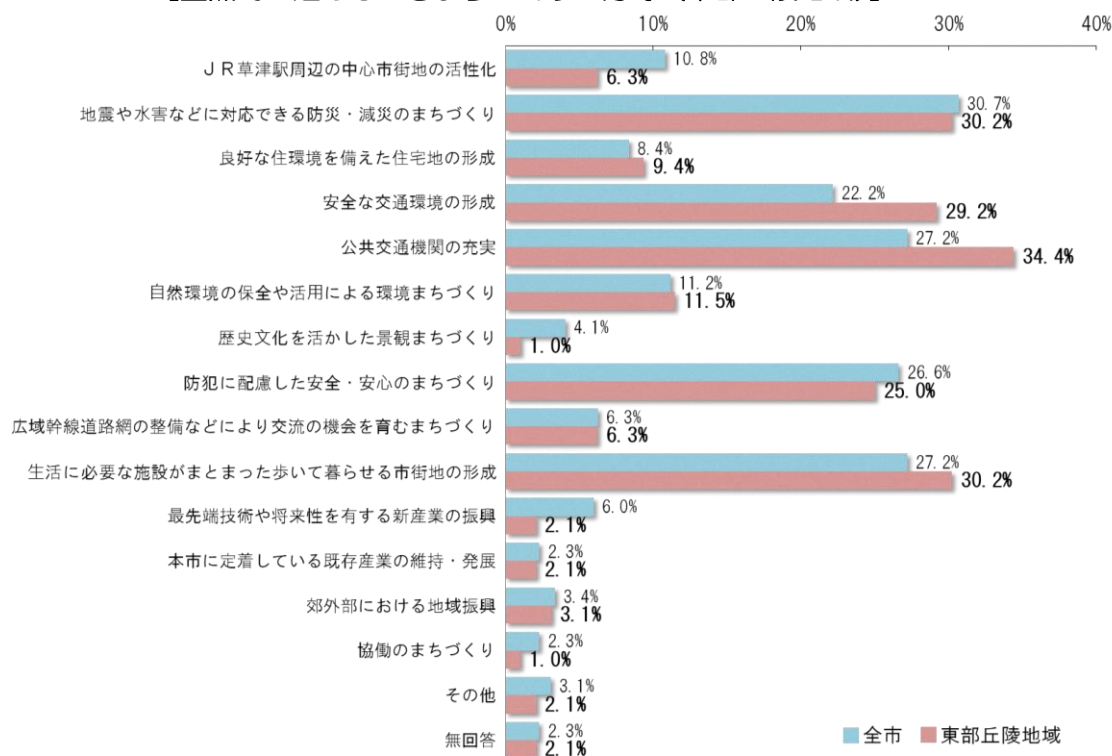
ア．市民アンケート調査

市民アンケート調査において、本地域にお住まいの皆さまの意向としては、次のとおりです。

①重点的に進めるべきまちづくりの分野

本地域において、全市の回答割合よりも多い項目は、「公共交通機関の充実」、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」、「安全な交通環境の形成」でした。

【重点的に進めるべきまちづくりの分野（東部丘陵地域）】



※2 つまでの複数回答、回答者数に対する割合

No.	設 問	全市	東部丘陵地域 (志津)
1	JR草津駅周辺の中心市街地の活性化	10.8%	6.3%
2	地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり	30.7%	30.2%
3	良好な住環境を備えた住宅地の形成	8.4%	9.4%
4	安全な交通環境の形成	22.2%	29.2%
5	公共交通機関の充実	27.2%	34.4%
6	自然環境の保全や活用による環境まちづくり	11.2%	11.5%
7	歴史文化を活かした景観まちづくり	4.1%	1.0%
8	防犯に配慮した安全・安心のまちづくり	26.6%	25.0%
9	広域幹線道路網の整備などにより交流の機会を育むまちづくり	6.3%	6.3%
10	生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成	27.2%	30.2%
11	最先端技術や将来性を有する新産業の振興	6.0%	2.1%
12	本市に定着している既存産業の維持・発展	2.3%	2.1%
13	郊外部における地域振興	3.4%	3.1%
14	協働のまちづくり	2.3%	1.0%
15	その他	3.1%	2.1%
16	無回答	2.3%	2.1%

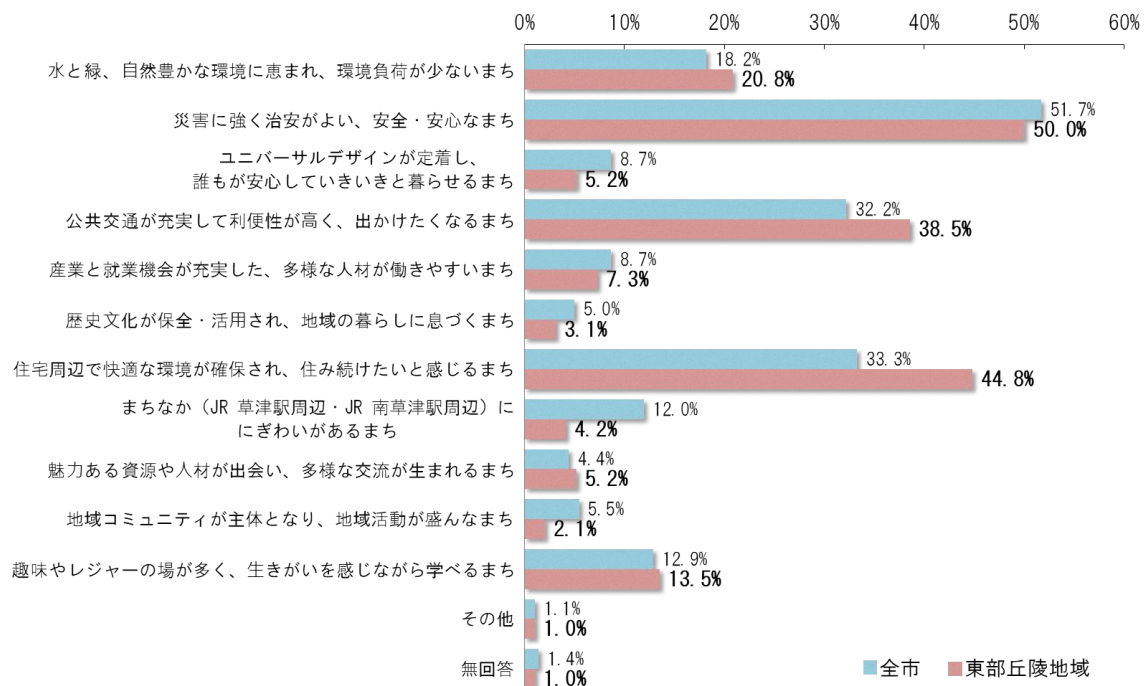
※赤色は全市での回答割合よりも高い箇所

②目指すべきまちの将来像

本地域において、全市の回答割合よりも多い項目は、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」、「水と緑、自然豊かな環境に恵まれ、環境負荷が少ないまち」でした。

最も多い回答数は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」でした。

【目指すべきまちの将来像（東部丘陵地域）】



※2 つまでの複数回答、回答者数に対する割合

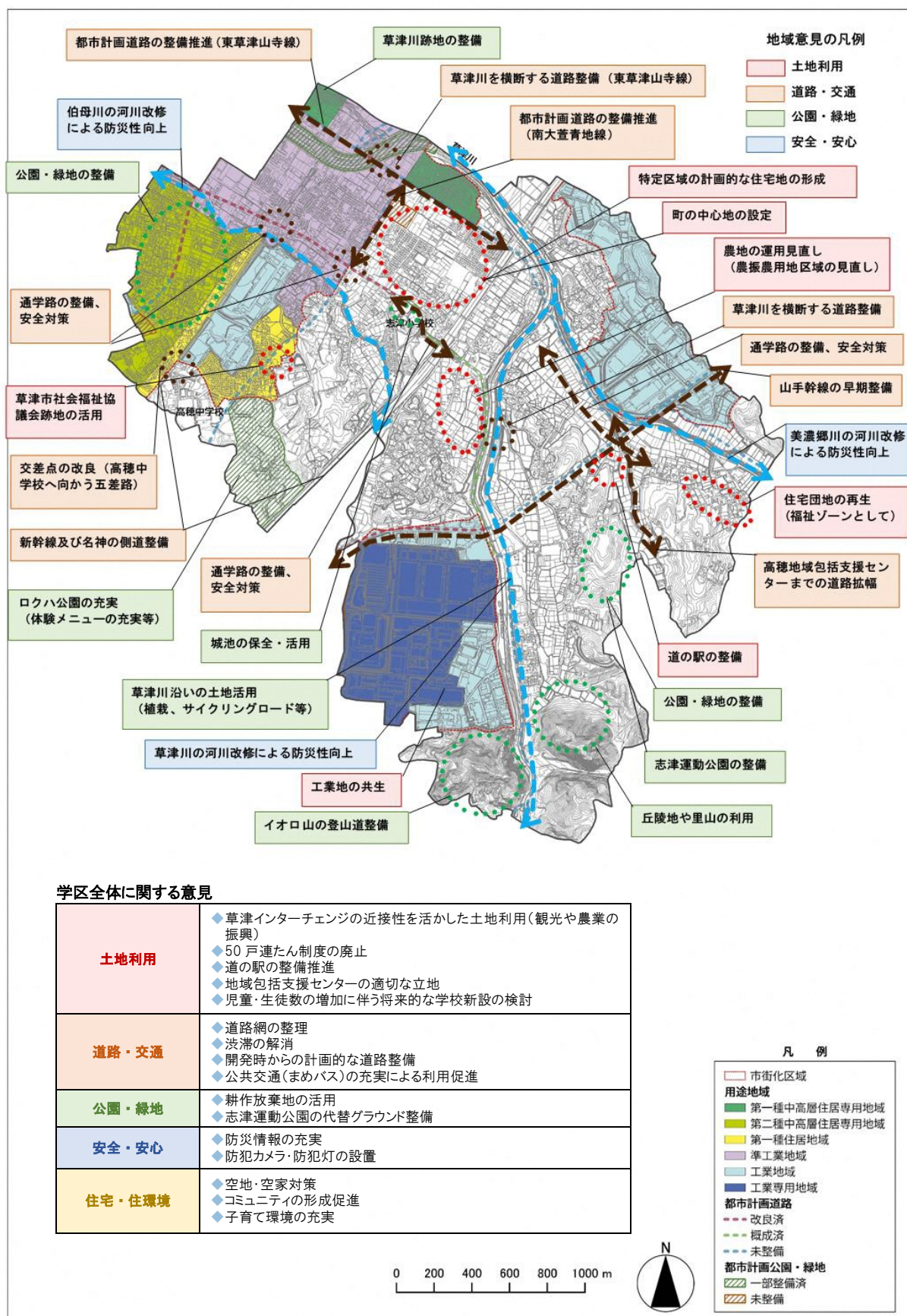
No.	設 問	全市	東部丘陵地域 (志津)
1	水と緑、自然豊かな環境に恵まれ、環境負荷が少ないまち	18.2%	20.8%
2	災害に強く治安がよい、安全・安心なまち	51.7%	50.0%
3	ユニバーサルデザインが定着し、誰もが安心していきいきと暮らせるまち	8.7%	5.2%
4	公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち	32.2%	38.5%
5	産業と就業機会が充実した、多様な人材が働きやすいまち	8.7%	7.3%
6	歴史文化が保全・活用され、地域の暮らしに息づくまち	5.0%	3.1%
7	住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち	33.3%	44.8%
8	まちなか（JR 草津駅周辺・JR 南草津駅周辺）ににぎわいがあるまち	12.0%	4.2%
9	魅力ある資源や人材が出会い、多様な交流が生まれるまち	4.4%	5.2%
10	地域コミュニティが主体となり、地域活動が盛んなまち	5.5%	2.1%
11	趣味やレジャーの場が多く、生きがいを感じながら学べるまち	12.9%	13.5%
12	その他	1.1%	1.0%
13	無回答	1.4%	1.0%

※赤色は全市での回答割合よりも高い箇所

イ. 地域別市民会議

第1～3回地域別市民会議で本地域にお住まいの皆さまからいただいた御意見は次のとおりです。

【地域からいただいた御意見（志津学区）】



第4章 地域別構想で設定した東部丘陵地域の「地域の都市づくりの目標」については、第2回地域別市民会議で地域の皆さまから挙げた以下のキーワードも参考としながら設定を行いました。

学区	志津
住環境	☐ (既往計画の)住・工・農の調和までは良い ☐ 住みやすいまち
道路・交通	☐ 交通改善
安全	☐ 安全安心 ☐ 子どもの安全 ☐ 安心
地域資源・歴史	
自然・農業	☐ 緑が多いくつろげる場所 ☐ 里山 ☐ 自然と調和したまちづくり ☐ 乱開発させない ☐ 自然体験 ☐ 農の振興 ☐ 里山利用 ☐ 親水性 ☐ 先進農業の振興
地域活動・にぎわい	☐ 中核の施設、学区のまとまりがない ☐ 街の中心地を決めて商業地に
その他	

参考－２ 用語解説

《あ行》

●●●●

《か行》

●●●●

健幸

生涯にわたって心も体も健やかで幸せに過ごせること。
本市では、市民が生きがいを持ち健やかで幸せに暮らせる
新しい都市モデルとして「健幸都市づくり」に取り組んで
いる。

健康寿命

平均寿命から寝たきりや認知症等、介護状態の期間
を差し引いた期間。平均寿命と健康寿命の差が短縮さ
れると、医療費や介護普及費の消費が抑えられること
により、個人の生活の質の低下を防ぐとともに、社会保
障負担の軽減も期待できるとされている。

《さ行》

尖角三角州状

《た行》

●●●●

《な行》

●●●●

《は行》

●●●●

《ま行》

●●●●

《や行》

●●●●

《ら行》

●●●●

《わ行》

●●●●

《A～（アルファベット）》

●●●●

参考－３ 策定経緯

※策定委員会、地域別市民会議、パブコメ、説明会、都市計画審議会等の
経過を時系列一覧で整理